

## 潟湖内の生物の様子

### ■潟湖内の生物に対する工事の影響

今回の調査でも、堤防工事のため七北田川河口の調査はできず、潟湖内の調査のみを行った。手網による生物の採集を試みたが、過去に観察されたユビナガスジエビをはじめとするエビの仲間やエビジャコは全く採集できなかった。橋桁跡などに見られたケフサイソガニなども採集できなかった。工事により外部との水の出入りが阻害されているため、水質が悪化している可能性が考えられる。

潟湖内では全長2.5cmのクロダイの稚魚を1匹採集した (Fig.1)。これまで採集したクロダイでは最も小さな個体であった。8cmほどのマゴチの稚魚、5cmほどのガザミの稚ガニも採集され、先月河口で採集した個体 (マゴチ全長4cm, ガザミ甲幅2cm程度) と比較すると順調に成長していると考えられる。



(Fig.1 クロダイの稚魚)



(Fig.2 マゴチの稚魚)

### ■湿地の再生の可能性

Fig.4は、以前池が存在しその周りの湿地にチゴガニやヤマトオサガニが生息していた場所である。工事の進捗で乾燥が進んでいたが (レポートNo155・156参照)、溝が掘られ水が入るようになり、ボラやコトヒキの稚魚 (Fig.5) が入り込んでいた。今回の調査では周囲にコメツキガニが観察されたが、今後泥地を好むカニが入り込んでくるか、注意して眼を向けていきたい。



(Fig.4 溝が掘られたためにできた池)



(Fig.3 ガザミの稚ガニ)



(Fig.5 コトヒキの稚魚)